

1975年12月16日 42才誕生日会見

記者 沖縄海洋博の入場者数が、予想されたほどに伸びていませんが。  
皇太子 数の問題も重要だろうが、それを見た人の心の中にどう留まるかが大事だと思います。復帰後間もない沖縄に初めてたくさんの方が行き、沖縄の土を踏んだということに意味がある。成功、不成功は海洋博を見に来た人に（海洋博や沖縄が）どう映ったかということでしょう。復帰前に（本土で）育った人は沖縄に対する認識が不足で、私などもそうでした。沖縄への関心を持ったのは、毎夏（本土を）訪れる「豆記者」の存在が大きかった。奄美へ行った時も沖縄の歴史や文化についていろいろと聞きまわした。一人一人との接触、人間の交流によってお互いの理解を深めていくことが大事ではないだろうか。

のには、学校教育の中にほとんど入っていないこと。将来学校教育の中に入れていきたいと思います。沖縄の歴史は心の痛む歴史であり、日本人全体がそれを直視していくことが大事です。避けては行けないし、しかし現実には琉球処分時代から戦後の復帰まで、私達はあまり学んで来たとはいえない。海洋博が沖縄を学ぶことの導火線になればと思います。これから機会があれば何回も行きたい。

1976年12月17日 43才誕生日会見

記者 浩宮様にはどういう帝王学をお考えですか。  
皇太子 帝王学という言葉が適切かどうかとも思いますが、たとえば、日本の文化、歴史、とくに天皇に関する歴史は学校などで学べないものです。それをこちらでやってみようという気持ちは、来年は（浩宮も）高校3年になり、時間的にはとりにやすすく。「象徴学」とは一つの言葉で表せられないと思います。いろんな材料を与えて、それをいかにか咀嚼していくことが大事です。話をする人の、こうあってほしいという願いにも意味がある。受けとる側がうまく受け止め、自分のものにできればいいのです。

記者 浩宮様が今、歴史上名を残された各天皇方の事績を勉強されていて、殿下も一緒に聴き取られていると伺っています。殿下ご自身は、今の浩宮様の年齢の頃、そういう勉強というのにはなかつたのですか。  
皇太子 天皇の歴史というのは、今度も見守り学長に話を伺いました。ただ（私の場合は）少し前ですね、中学から高校にかけてだから。  
記者 それはご自身にとつて役に立っているとお考えですか。  
皇太子 何というのでしょうか、こう一しみついでくるというようなことはあると思いますね。  
記者 いま改めて浩宮様と一緒に進講をお受けになっておられるというのには、もう一度やり直してみようかというお気持ちなんではないでしょうか。  
皇太子 そうですね。さっきお話ししたように、私は中学の時代です。今度の方がずっと程度は高いわけですね。今度は大へかけてです。

1977年12月19日 44才誕生日会見

記者 浩宮様が今、歴史上名を残された各天皇方の事績を勉強されていて、殿下も一緒に聴き取られていると伺っています。殿下ご自身は、今の浩宮様の年齢の頃、そういう勉強というのにはなかつたのですか。  
皇太子 天皇の歴史というのは、今度も見守り学長に話を伺いました。ただ（私の場合は）少し前ですね、中学から高校にかけてだから。  
記者 それはご自身にとつて役に立っているとお考えですか。  
皇太子 何というのでしょうか、こう一しみついでくるというようなことはあると思いますね。  
記者 いま改めて浩宮様と一緒に進講をお受けになっておられるというのには、もう一度やり直してみようかというお気持ちなんではないでしょうか。  
皇太子 そうですね。さっきお話ししたように、私は中学の時代です。今度の方がずっと程度は高いわけですね。今度は大へかけてです。

記者 浩宮様が今、歴史上名を残された各天皇方の事績を勉強されていて、殿下も一緒に聴き取られていると伺っています。殿下ご自身は、今の浩宮様の年齢の頃、そういう勉強というのにはなかつたのですか。  
皇太子 天皇の歴史というのは、今度も見守り学長に話を伺いました。ただ（私の場合は）少し前ですね、中学から高校にかけてだから。  
記者 それはご自身にとつて役に立っているとお考えですか。  
皇太子 何というのでしょうか、こう一しみついでくるというようなことはあると思いますね。  
記者 いま改めて浩宮様と一緒に進講をお受けになっておられるというのには、もう一度やり直してみようかというお気持ちなんではないでしょうか。  
皇太子 そうですね。さっきお話ししたように、私は中学の時代です。今度の方がずっと程度は高いわけですね。今度は大へかけてです。

記者 浩宮様が今、歴史上名を残された各天皇方の事績を勉強されていて、殿下も一緒に聴き取られていると伺っています。殿下ご自身は、今の浩宮様の年齢の頃、そういう勉強というのにはなかつたのですか。  
皇太子 天皇の歴史というのは、今度も見守り学長に話を伺いました。ただ（私の場合は）少し前ですね、中学から高校にかけてだから。  
記者 それはご自身にとつて役に立っているとお考えですか。  
皇太子 何というのでしょうか、こう一しみついでくるというようなことはあると思いますね。  
記者 いま改めて浩宮様と一緒に進講をお受けになっておられるというのには、もう一度やり直してみようかというお気持ちなんではないでしょうか。  
皇太子 そうですね。さっきお話ししたように、私は中学の時代です。今度の方がずっと程度は高いわけですね。今度は大へかけてです。

記者 浩宮様が今、歴史上名を残された各天皇方の事績を勉強されていて、殿下も一緒に聴き取られていると伺っています。殿下ご自身は、今の浩宮様の年齢の頃、そういう勉強というのにはなかつたのですか。  
皇太子 天皇の歴史というのは、今度も見守り学長に話を伺いました。ただ（私の場合は）少し前ですね、中学から高校にかけてだから。  
記者 それはご自身にとつて役に立っているとお考えですか。  
皇太子 何というのでしょうか、こう一しみついでくるというようなことはあると思いますね。  
記者 いま改めて浩宮様と一緒に進講をお受けになっておられるというのには、もう一度やり直してみようかというお気持ちなんではないでしょうか。  
皇太子 そうですね。さっきお話ししたように、私は中学の時代です。今度の方がずっと程度は高いわけですね。今度は大へかけてです。

つものをつかんでいくことになると思うんです。ことに、絶対に起すにはならない戦争を少し前には日本は経験しているわけですし、そういう点からいって、新しいところの歴史は必要だと思えますね。  
(中略)

記者 さきほどの天皇の歴史の御進講の内容はどのような……。  
皇太子 篤学習院大学教授と、笹山教授の二人がやっておられるが、日本書紀とか続日本紀とかを中心にしておられる。古代です。それから、史料といふのは少ないわけですね。だからその史料から考えられる限り、こうが正しいんじゃないかとできる限り正確を旨としてやっておられるので、私は大変いいんじゃないかと思っております。(中略)

皇太子 たとえば近世の歴史をとれば、ある程度基礎があるところ話を聞いた方がよりいいんじゃないかと思うわけですね。受け入れる土壌が十分できてからした方が、より生きてくると思いますか。  
その時期がいつがいいかということ。憲法になりますと、高等科でもごく簡単な憲法をやっている、そういう土壌はできていくわけですね。だからすぐ始めていいということ。憲法をあげたわけですね。近世史といふのは学校なんかでは、近世までいかないで終わっちゃうことがあるんですね。だから、近世の歴史に関して何か本を読んでおく、その上で話を聞けばいい。大抵の多いものがあるんじゃないかと。初めて聞く話はなかなか頭に入りにくいことがありますから。

1987年9月14日 51才誕生日会見  
記者 戦争を知らない世代がどんどん増えていきますが、お子様に戦争当時のことをどうやって伝えておられますか。  
皇太子 なかなかむずかしいことだと思えます。ただ、私は近代の歴史を勉強するように聞いています。歳をとった人が自身で体験したことでも、若い人にとっては歴史として学ぶことになり。たとえば、私にとつて第一次世界大戦は遠い昔のことのように思われますが、今の若い人達にとっては、先の大戦もさうと同じくらい昔のことになります。

皇太子 なかなかむずかしいことだと思えます。ただ、私は近代の歴史を勉強するように聞いています。歳をとった人が自身で体験したことでも、若い人にとっては歴史として学ぶことになり。たとえば、私にとつて第一次世界大戦は遠い昔のことのように思われますが、今の若い人達にとっては、先の大戦もさうと同じくらい昔のことになります。

おへし商材英一  
日 新天皇家の自伝的日記

1978年8月10日夏の定例会見

記者 いま殿下と浩宮様のお二人で歴代天皇の事績について御進講をお受けになっていますが、お二人でそのことについて話し合

いなさることはありますか

皇太子 そうですね。夕食の時皆で話し合う時は、たとえば日本の天皇は文化といったものを非常に大事にして、権力がある独裁者というよう人は天皇の中では非常に少ないわけですね。そういう特色が長い間あるわけです。この象徴というものは決して戦後にできたものではなくて、非常に古い時代から象徴的存在だったといっていると思っんです

1984年4月6日結婚2周年会見

記者 ご公務について伺いたいと思いますが、英国をはじめ各国王室と親交を深められたことを通じて、日本の皇室のあるべき姿について一感じられた点がありましたらお聞かせ下さい

皇太子 各国の王室は、国情や憲法に従ってさまざまな違いがみられるわけですが、各国王室とも国民のためにどうあるべきかという点については、一致していると思います。そのためにこのような交流から学ぶことも大変多いのです

また、共通の話題で楽しく話をすることもあるわけですが、そこから、こういうことを今後とも続けていきたいと思っっています。日本の皇室は、長い歴史を通じて、政治を動かしてきた時期はきわめて短いのが特徴であり、外国にはない例ではないかと思っっています

政治から離れた立場で国民の苦しみに心を寄せたという過去の天皇の話は、象徴という言葉で表わすのに最もふさわしいあり方ではないかと思っっています。私も日本の皇室のあり方としては、そのようなものでありたいと思っっています

1986年5月26日読売新聞への回答

記者 皇室と国民の関係について、その理想的なあり方は、皇太子 天皇が国民の象徴であるというあり方が、理想的だと思っ

ます。天皇は政治を動かす立場にはなく、伝統的に国民と善業をともにするという精神的立場に立っています

このことは、疫病の流行や飢饉に当たって、民生の安定を祈念する嵯峨天皇以来の天皇の写経の精神や、また、一朕、民の父母と為りて徳覆うこと能わす、甚だ自ら痛む」という後奈良天皇の写経の奥書などによっても表されていると思っっています

1986年8月23日夏の定例会見

記者 浩宮様は英国で「英王室のいい点を取り入れ、皇室の体質を一層変えていかなければならない」と発言されましたが、どう思われますか

皇太子 英王室も日本の皇室もそれぞれ国民の中で育ってきたものであり、時代とともに変わってきています。国民の幸福を大切に考えるという精神は、今から400年以上も昔の後奈良天皇にも、明治天皇にもみられ、皇室の伝統として現在につながるものと思っっています。しかし、天皇のあり方は足利幕府時代の後奈良天皇と大日本帝國憲法下の明治天皇とは大きく異なります

し、日本國憲法下の現在とはさらに変わってきておられます。現代の皇室は現代の国民に望ましいあり方であればなりません。皇室のあり方を考える上で、いろいろな外国の王室の良

いところを学んでいくのは大切なことと思っっています。日本の社会とヨーロッパの社会とを比べると、日本の社会生活には公的部分が多く、私的部分が少ないという感じを受けます。ヨーロッパの王室と日本の皇室の国民との交流のあり方には、このような社会の違いを反映している点も感じられます

問2 政府が設置した有識者会議で象徴天皇の在り方について議論が重ねられており、国民の関心も高まっています。次期皇位継承者である殿下ご自身は象徴天皇とはどのような存在で、その活動はどうあるべきとお考えでしょうか。殿下が即位されれば皇后となられる雅子さまの将来の務めについて、お二人でどのようなお話をされておられますか。

皇太子殿下お誕生日に際し（平成29年） 宮内庁HP

皇太子殿下

象徴天皇については、陛下が繰り返し述べられていまいし、また、私自身もこれまで何度かお話ししたように、過去の天皇が歩んでこられた道と、そしてまた、天皇は日本国、そして日本国民の象徴であるという憲法の規定に思いを致して、国民と善業を共にしながら、国民の幸せを願い、象徴とはどうあるべきか、その望ましい在り方を求め続けるということが大切であると思っっています

陛下は、おこぼれの中で「天皇の務めとして、何よりもまず国民の安寧と幸せを祈ることを大切に考えて来ましたが、同時に事にあたっては、時として人々の傍らに立ち、その声に耳を傾け、思いに寄り添うことも大切なことと考えて来ましたが」と述べられました。私も、阪神淡路大震災や東日本大震災が発生した折には、雅子と共に誠意にわたり被災地を訪れ、被災された方々から直接、大切な人々を失った悲しみや生活面での御苦勞などについて伺いました。とても心の痛むことでしたが、少しでも被災された方々の痛みを思いを寄せることができたのであればと願っています。また、ふたんの公務などで国民の皆さんとお話をする機会が折々にありますが、そうした機会を通じ、直接国民と接することの大切さを実感しております

このような考えは、御を離れられたことがあつた過去の天皇も同様に強くお持ちでいらつたようです。昨年8月、私は、愛知県西尾市の老舗文庫を訪れた

折に、戦国時代の16世紀中頃のことで、洪水など大保不順による飢饉や疫病の流行に心を痛められた後奈良天皇が、苦しむ人々のために、諸國の神社や寺に奉納するために自ら写経された宸翰館蔵心経のうちの一番を拝見する機会に恵まれました。紺色の紙に念定で書かれた後奈良天皇の和名心経は若狭文庫以外にも幾つが残っていますが、そのうちの一つの奥書には「私は民の父母として、徳を行き渡らせることができず、心を痛めている」旨の天皇の思いが記されておりました。災害や疫病の流行に対して、般若心経を写経して奉納された例は、平安時代に疫病の大流行があつた折の嵯峨天皇を始め、鎌倉時代の後醍醐天皇、伏見天皇、南北朝時代の北朝の後光厳天皇、室町時代の後花園天皇、後上野天皇、後柏原天皇、そして、今お話しした後奈良天皇などが挙げられます。私自身、こうした先人のなさりようを心にとどめ、国民を思い、国民のために祈るとともに、両陛下がまさになさっておられるように、国民に常に寄り添い、人々と共に喜び、共に悲しむ、ということを行って

きたいと思っっています。私が、この後奈良天皇の御尊を拝見したのは、8月8日に天皇陛下のおことばを伺う前日でした。時代は異なりませんが、恐ろしくも、2日続けて、天皇陛下にお気持ちに触れることができたことに深い感慨を見えます

私がここ10年ほど関わっている「水」問題については、水は人々の生活にとって不可欠なものであると同時に洪水などの災害をもたらすものです。このように、「水」を切り口として、国民生活の安定、発展、豊かさや防災などに考えを巡らせていくこともできると思っっています。私としては、今後とも、国民の幸せや、世界各地の人々の生活向上を願つていく上で、一つの軸として、「水」問題への取組を大切にしていければと思っっています

また、私のこうした思いについては、日頃から雅子とも話をしてきており、将来の務めについても話し合つていきたいと思っっています